

---

# とらいあんぐる

遊崎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とらいあんぐる

### 【Nコード】

N4572K

### 【作者名】

遊崎

### 【あらすじ】

高校一年生の私、未空瑠衣はただいま困った人間関係の渦中にいた。  
忘れられない元彼、私を愛してくれる先輩。  
陥る修羅場に、最後は誰に辿りつく？

## しゅらば（前書き）

初めての恋愛もの。

## しゅらば

わたしは未空瑠衣、高校1年生。

目の前には二人の男子がいる。

一人は、沢崎望、同級生。

私が付き合っていた男子だ。

でも、2ヶ月前に沢崎から別れてほしいと言われ、別れた。

本当は別れたくなんてなかったけど、あの手この手で言い包められてしまった。

私は沢崎が心の底から好きだった。

悲しかったから死ぬほど泣いて、ていうか自殺を考えることもあった。

そして、もう一人。

一歳年上の、池永隼。

彼は私を理解してくれて、愛してくれる。

沢崎を忘れるために付き合ったけれど、彼のことを沢崎以上に好きになることはできなくて、だから別れてもらった。

隼は、そんな私に怒ることなどせず、許してくれた。

それで、私たち3人が何をしているのかと言うと。

ここは放送室で、鍵は閉まっていて、蛍光灯は仕事をしていない。

でも美味しい展開ではないのは、わかっていることだろうけど。

私は椅子に座り、二人は私の前に立ち、睨みあっている。

理由は簡単。

隼が沢崎を殴ったから。  
何故、隼が沢崎を殴ったのか。

私が沢崎に振られて、私はそのことを先輩として親しかった隼に告げた。

「未空はどうしたい？」

「そりゃ、ヨリ戻したいよ・・・」  
「だよなあ。」

そして私は沢崎とヨリを戻すために、手紙を出し、メールをし、電話をかけたが、全て無視を食らった。

私は精神的に追い詰められ、自殺を考えるようになった。

「もう、死にたいよ・・・」

「そんなこと言うな。お前が死んだらみんな悲しむ。」

「わかってるけど・・・でも、もう辛いんだよ・・・」

「未空、・・・」

泣きだしてしまった私を、隼は抱きしめた。

「え、せんば、」

「俺じゃ駄目？」

「え、え？」

「俺じゃ沢崎の代わりにはなれない？」

「・・・わからないよ」

「お前が好き。沢崎を忘れるためにでもいいから、付き合ってくれ」  
「・・・ありがとう。」

そうして、私と隼は付き合うことになった。  
でも。

私の脳裏にはいつも沢崎がチラついて、離れなかった。  
彼は愛してくれたけど、私は彼を沢崎以上に愛せなかった。  
申し訳なくて、別れて、と告げた。

私は昨日、私の思いを沢崎に伝えることに決めた。  
沢崎を放送室に呼び出す。  
その役を隼が買って出てくれた。

「やっぱり、沢崎が好き。忘れられない。  
昔みたいに、一緒にいたい・・・」

「はあ？そんなの無理に決まってる。俺新しい彼女いるし  
図に乗ってんじゃねーよブス、お前なんか遊びだっつの」

心に突き刺さる言葉だった。

沢崎が言い捨てた瞬間、隼は沢崎を殴っていた。

「ふざけんなよ、お前！！」

そして、今。

つまりは修羅場である。

うーわー、どーしよーというのが私の本音ではあるのだけど、そ  
んなことを言える空気ではない。

未だ二人の睨みあいが続いていて、私が口を出せるような空気では  
ない。

しかしその状況は、隼の手によって変えられる。

「お前のせいで、どれだけ瑠衣が傷ついたと思ってんだよ!!」  
「・・・」

隼が叫んでも、沢崎は微動だにせず、隼を睨みつけている。

「・・・もう、いいよ」  
二人の視線が私に集まる。

「もう、いい。」  
「瑠衣!」

私は、放送室を飛び出してしまった。

続く

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4572k/>

---

とらいあんぐる

2010年10月9日22時09分発行